

# 新見公立大学第三者評価報告書

令和4(2022)年2月22日

## 1 第三者評価の目的

本学は、社会からの信頼を獲得するため、「新見公立大学教育研究活動等の点検及び評価に関する実施要領」に基づき、自己点検・評価、法人評価など多元的に複層化した大学の内部質保証活動の全体を整理して自己点検・評価を実施し、「自己点検・評価書(2021.12.1)」を作成している。この自己点検・評価書の客観性を担保するため、第三者評価を実施した。

なお、第三者評価の講評結果に基づき作成した「第三者評価報告書」は、「自己点検・評価書(2021.12.1)」と共にホームページに公表し、社会への説明責任を果たす。

また、「自己点検・評価書(2021.12.1)」の評価結果及び「第三者評価報告書」に示された改善を要する事項等については、令和4年度の年度計画に反映させるなど改善に向けた取組を開始する。

## 2 日時

令和4年2月5日(土) 9時30分～13時05分

## 3 評価者

島根県立大学	学長代行 看護栄養学部看護学科教授	山下 一也
岡山県立大学	学長	沖 陽子
福山市立大学	教育学部児童教育学科教授(元学部長)	渋谷 清
高知県立大学	社会福祉学部長	宮上 多加子

## 4 本学参加者

公文 裕巳(学長)	小田 慈(副学長)
田枝 修己(事務局長)	上山 和子(健康科学学部長)
矢庭 さゆり(看護学研究科長)	四宮 美佐恵(助産学専攻科長)

(内部質保証部会)

斎藤 健司(委員長:学生部長)	矢嶋 裕樹(学生部次長)
岡本 直行(健康保育学科長)	金山 時恵(看護学科長)
松本 百合美(地域福祉学科長)	石橋 博(事務局次長)
山田 雅夫(副委員長:FD・SD委員長)	眞治 章(総務課主査)
加藤 雅彦(教学マネジメント)	能勢 修(内部質保証)

## 5 実施形態

### Web 会議

(新見公立大学での対面方式を予定していたが、新型コロナの蔓延に伴い Web 会議に変更)

## 6 提出資料

- ・ 新見公立大学自己点検・評価書(2021. 12. 1)
- ・ 新見公立大学自己点検・評価書の別冊 (基礎データ・附属参考資料)
- ・ 新見公立大学 大学案内
- ・ 新見公立大学 学生便覧 (大学・大学院)

## 7 第三者評価の実施概要

大学紹介の後、下記の説明を行い、質疑応答を行った。

### (1) 新見公立大学の内部質保証

#### ① 内部質保証の取組み

本学の内部質保証の実施体制、内部質保証の取組み状況等を説明

#### ② 理念、目的、目標及び方針

本学の理念、目的、目標及び3つの方針（ポリシー）、ならびに本学が3つの方針以外に制定している7つの方針（大学運営に関する方針、内部質保証に関する方針、教学マネジメント基本方針など）について説明

### (2) 自己点検・評価の評価結果とその対応状況

#### ① 法令適合性の保証に関する事項（評価基準1）

自己点検・評価書(2021. 12. 1)に記載している評価結果に基づく改善措置の状況として3つの方針の見直し（丁寧な説明）、教育改善（教学マネジメントの推進）などについて説明

#### ② 教育研究の水準の向上に関する事項（評価基準2）

1学部3学科体制への移行による教育研究水準の向上のための諸活動を組織的に行っていること、ならびに個々の取組み事例を説明

#### ③ 特色ある教育研究の進展に関する事項（評価基準3）

本学の基本理念である「人と人との繋がりが合う地域に根ざした大学として、地域を拓く優れた人材の育成」に則した特色ある教育研究の進展のための諸活動を組織的に行っていること、ならびに個々の取組み事例を説明

## 8 講評

### (1) 新見公立大学の内部質保証

#### ① 内部質保証の取組み

- ・ 自己分析活動については、内部質保証部会を設置して担当者を置くなど、内部質保証を推進するための体制を整備している。整備した内部質保証システムが有効に機能するよう期待する。
- ・ 教員活動の省察は試行中ということであるが、実施後に、点検評価ポートフォリオの作成も含めて、十分に分析をされて、継続性が確保されるようなまとめになることを期待する。
- ・ 内部質保証の基本となる体制を整備した上で、法令適合性の保証、教育研究の水準の向上、特色ある教育研究の進展について、誠実に自己点検・評価に当たっており評価できる。
- ・ 法令適合性の保証、教育研究の水準の向上、特色ある教育研究の進展についての自己点検・評価は、客観的な視点を取り入れながら行っており評価できる。
- ・ 自己点検・評価は、一般的に大学側の視点から主体的に評価しがちであるが、貴学では学生の姿が端々に見えており評価できる。大学だけで決めるのではなく、学生の視点を取り入れながら教育研究の水準の向上に努めており好感を持てる。
- ・ 3 学科には対人援助職という共通性と小規模大学という特性を生かして自己点検・評価書をまとめている。また、視覚的に分かりやすい評価書になっている。

#### ② 理念、目的、目標及び方針

- ・ 設置団体である新見市から示された中期目標を達成し、大学の目的、基本理念に基づく人材育成及び地域の発展に貢献することを期待する。
- ・ 自己点検・評価に先立って大学運営に関する方針など新たに7つの方針を策定している点も評価できる。

### (2) 自己点検・評価の評価結果とその対応状況

#### ① 法令適合性の保証に関する事項（評価基準1）

- ・ 常に貴学は志願倍率が高いことは評価できる。このことがモチベーションの高い学生が集まっていることの下地になっている。そして、学生は入学してからの自分の要望に沿った教育を受けているという一連の流れがよく分かった。今までの伝統にプラスして新たな展開から組織を見直し、新たな目標を立てて大学を運営している。これらが自己点検・評価書に書かれており評価できる。
- ・ 教育については、学部、研究科共に学位授与の方針、教育課程の編成・実施の方針を定め、必要な授業科目を配置しており、カリキュラムの全体構造、授業科目間の系統性を示すカリキュラムマップも作成している。
- ・ コロナ禍で用いた ICT 教育は、今後も大学教育の中で活用していく機会が多い。

実績や課題および今後の対応等を含めて盛り込むことが望まれる。

- 社会連携・社会貢献については、地域共生推進センターを設置し、自治体、団体等の課題について大学の知識資源を活用する課題解決を目指している。また、学生がボランティア活動などを積極的に行っている。
- 学生が学修に向かう姿勢を形づくるための学生支援は重要であり、学習面・精神面・経済面など多様な支援について、詳述することが望まれる。
- 科学研究費の獲得に努力をするよう期待する。
- 大学の構成は、学生、教員及び職員の三本柱である。学生と教員との関りは理解できたが、学生と職員との関係が見えない。点検評価ポートフォリオの作成も含めて学生と職員との関係が分かるよう整理することが望ましい。
- 学生便覧は、学生の立場に立った構成と記述となっており、学生が活用しやすい内容になっていると思われる。

### ② 教育研究の水準の向上に関する事項（評価基準 2）

- 教育研究の水準の向上（評価基準 2）に関しては、健康科学部 1 学部 3 学科体制への移行による水準向上を取り上げており分かりやすかった。ただ、教育研究水準の向上について、大学の各組織のどこがどのように関与して、組織的に繋がるのかを説明することが望まれる。

### ③ 特色ある教育研究の進展に関する事項（評価基準 3）

- 特色ある教育研究の取組みについては、地域志向科目を履修させることで地域活性化とも大きく連動していると考えられる。さらに、こども発達支援士、訪問看護・地域看護コースなど特色を持ったものがある。
- 特色ある教育研究の進展（評価基準 3）に関しては、タイトル No.5 において、正課外活動を取り上げている。学生が主体的、自主的に参加することによって学生に人間力等が備わるものであり、このような活動は大事に育ててほしい。また、今後は本活動に関係する学生をはじめ、ステークホルダーの意見を積極的に取り上げることが望まれる。

## 9 講評等に基づく改善

講評結果及び質疑応答での意見等は別途取りまとめ、令和 4 年度の年度計画に反映する。

以 上